まわりみち

琵琶湖ツーリズムの交通拠点

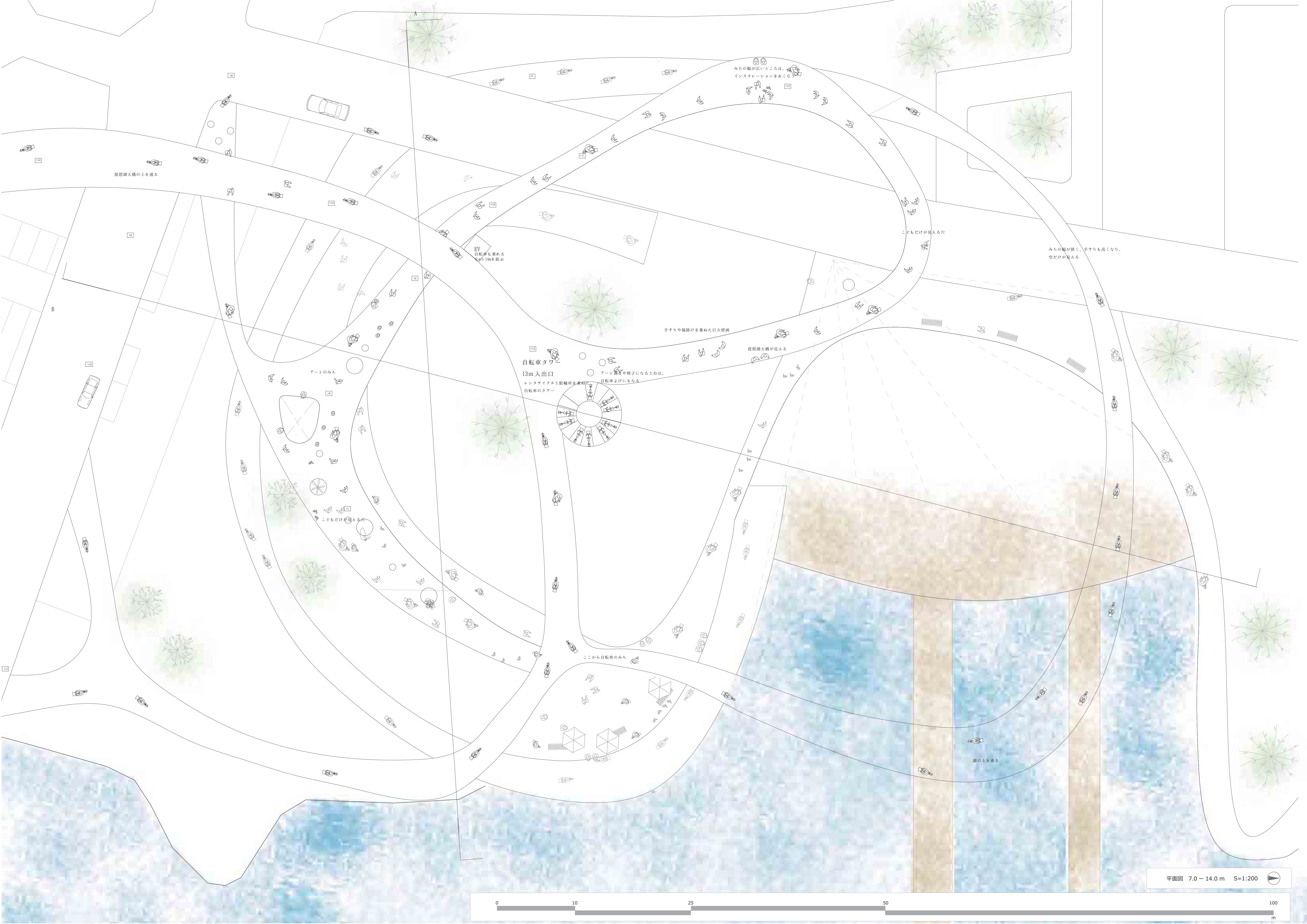
坂牛研究室　藤坂美佳

concept

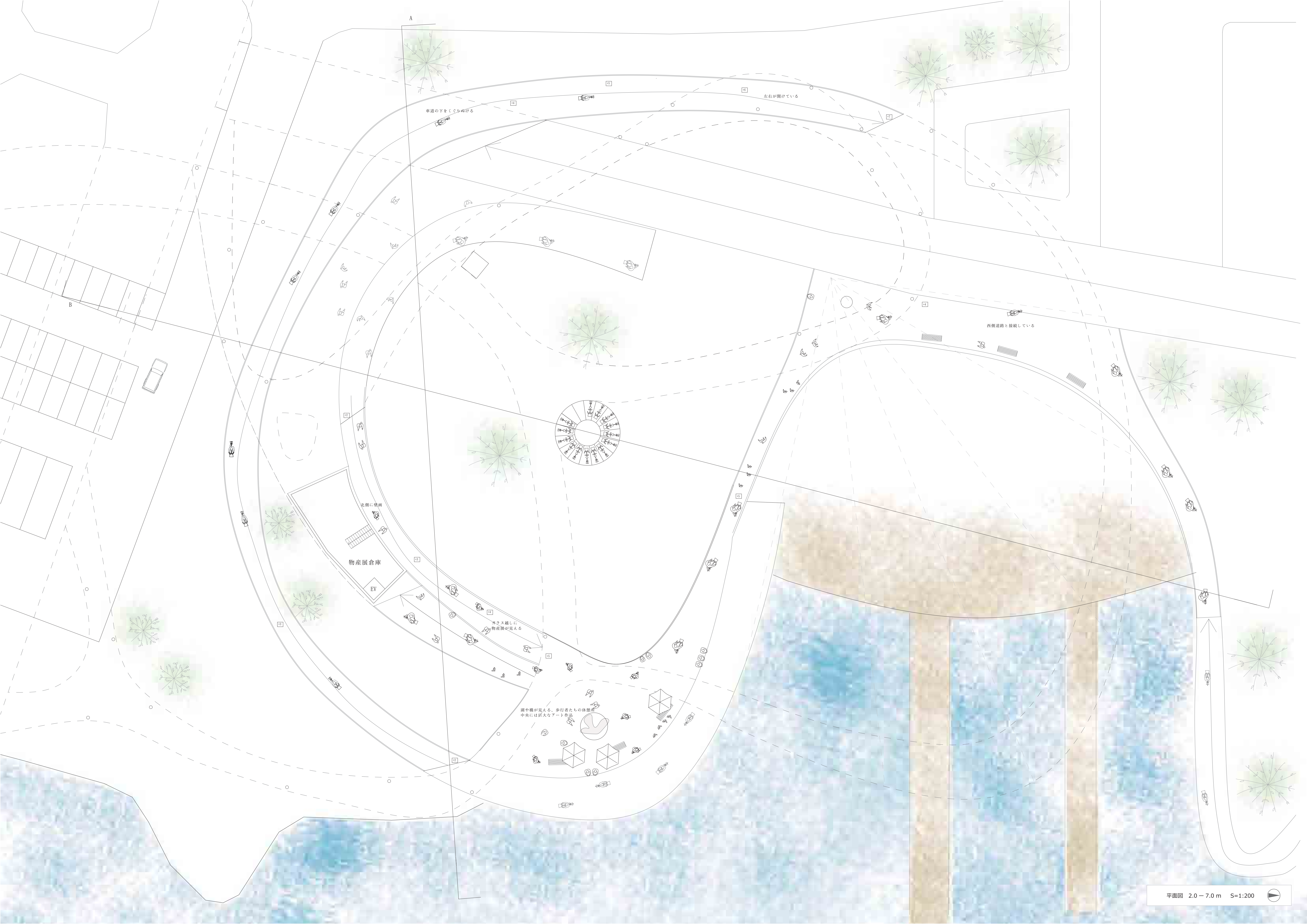
琵琶湖を、徒歩、自転車、車、船などで
もっと気軽に楽しむことができる、交通拠点となる まわりみち を計画した。

site　滋賀県大津市

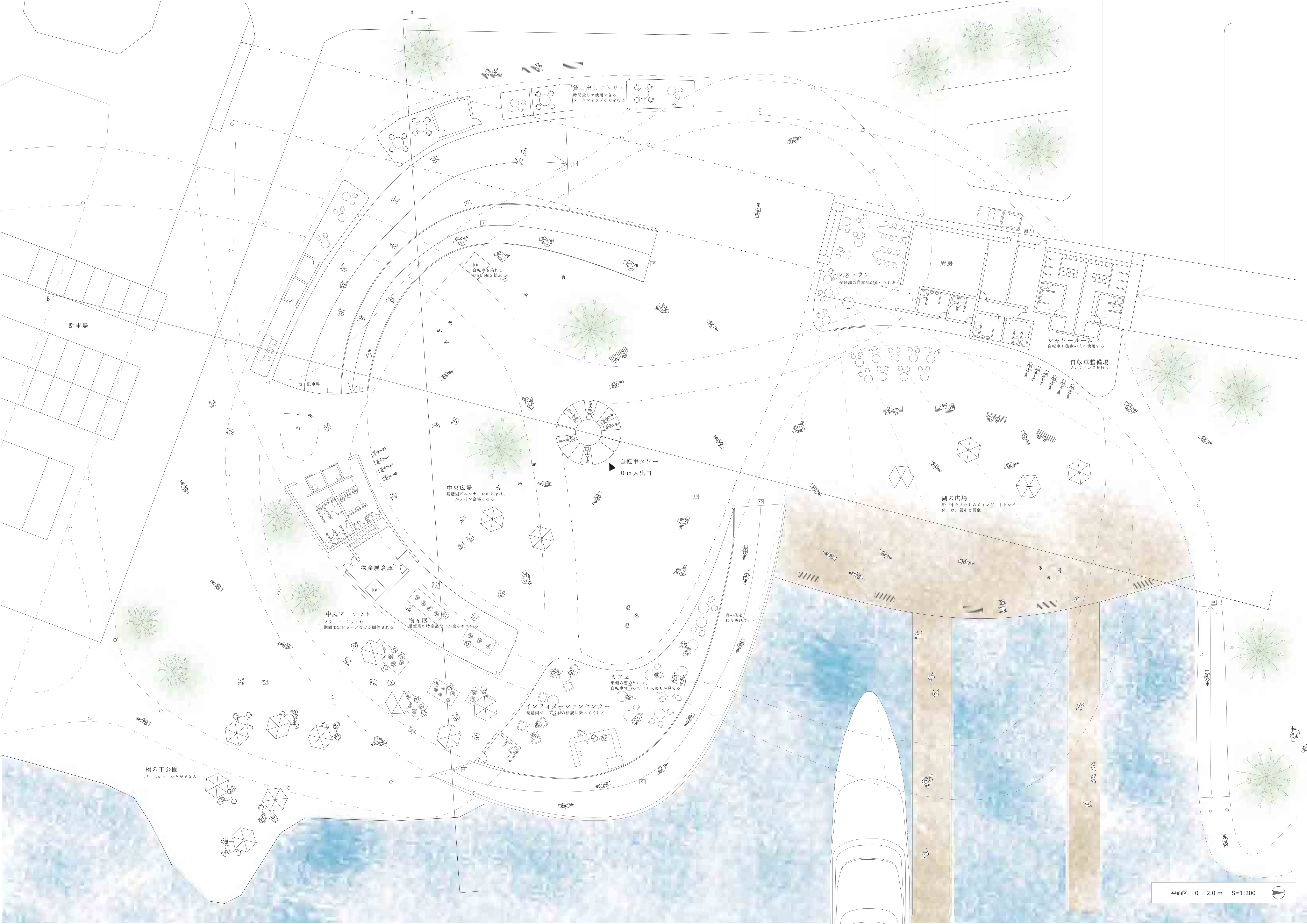
敷地は、全長 15.4km の琵琶湖大橋の西詰。東側は琵琶湖に接しており、西側には比叡山が見える風光明媚な場所。



平面図 7.0 − 14.0 m S=1:200



平面図　2.0 − 7.0 m　S=1:200

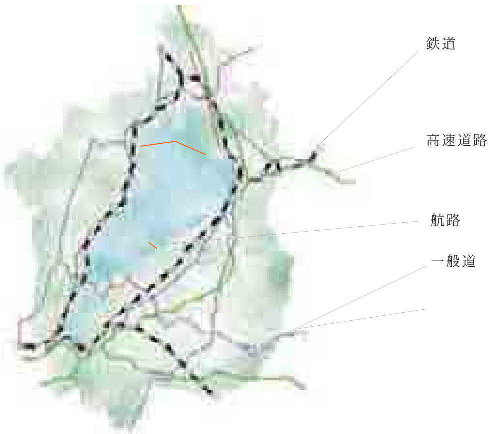


平面図　0－2.0m　S=1:200

background

自転車での琵琶湖一周が注目されている。しかし、周囲約 200km の琵琶湖一周は、体力のない人やこどもにとってとても大変である。もっと気軽に琵琶湖を楽しむことはできないだろうか？

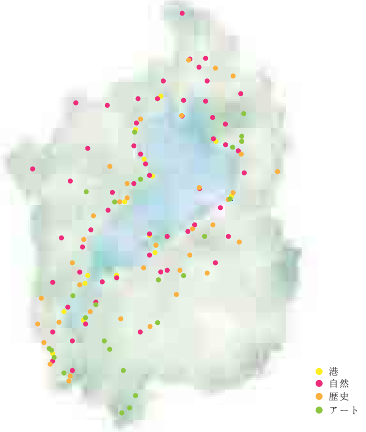
現在の交通インフラ



琵琶湖を囲むように配置されている

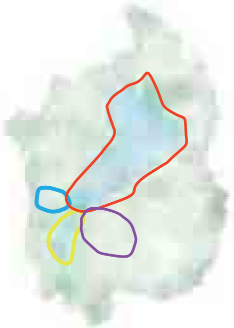
→今後、湖上交通の発展が望まれている

横移動がほとんどできない琵琶湖にとって、湖上交通があれば移動が容易になる。

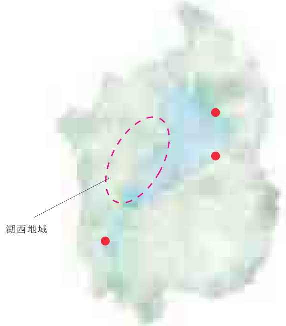


琵琶湖沿岸の様々な場所に観光施設が点在している琵琶湖を楽しむためには、
徒歩、自転車、船、車などに乗り換えて観光できるような交通拠点が必要である。

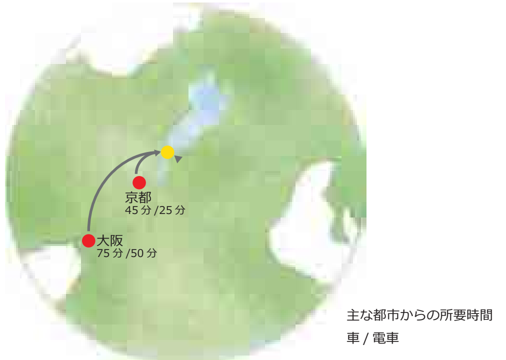
主な自転車のルート



琵琶湖沿岸のメインポート

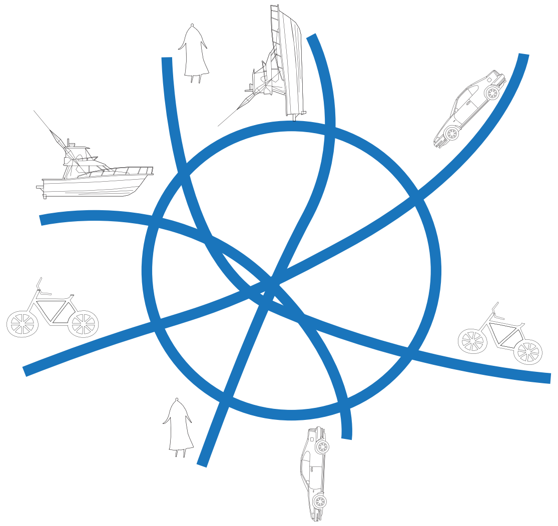


湖西地域にはメインとなるところがない



主な都市からの所要時間
車 / 電車

メインポートのない湖西地域に交通拠点施設を計画する。
京阪神からのアクセスや、自転車のルートとして計画しやすい、琵琶湖大橋西詰にある、琵琶湖大橋港を敷地とする。

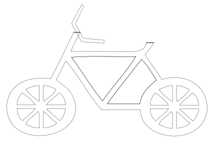


交通拠点のイメージ

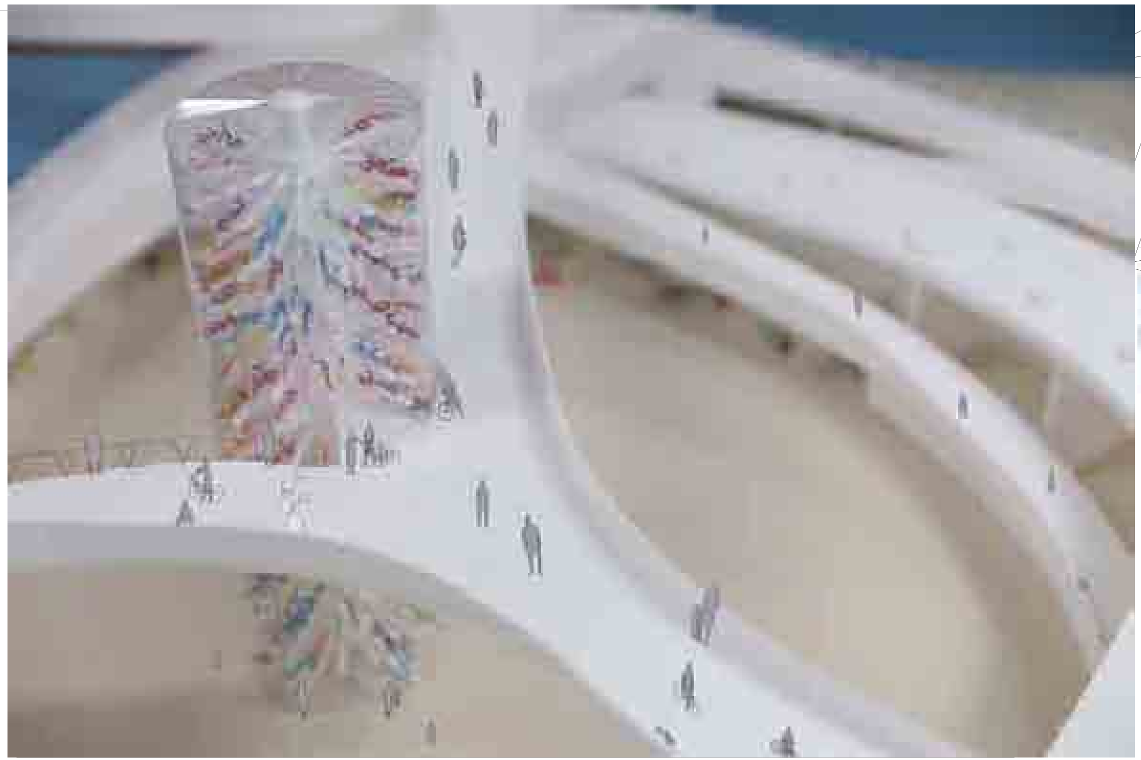
現在の琵琶湖大橋港。観光船が週末に発着する
程度でほとんど利用されていない。
現在ある建物の裏側に桟橋だけの港があり、
とても寂れた雰囲気である。

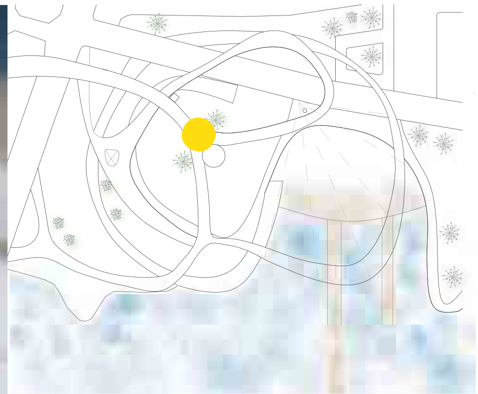
まわりみちの楽しみかた

自転車のみち



車をここに停めて、琵琶湖サイクリングした。
旅の最後、琵琶湖大橋を渡ってここに戻ってきた。

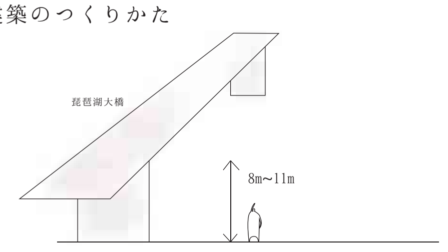




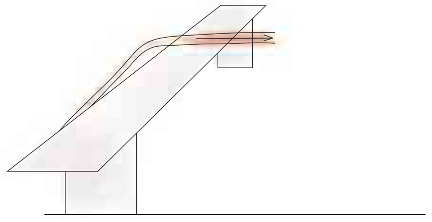
自転車タワーはレンタサイクルと駐輪所を兼ねており、
+0m と +13m 地点から自転車の出入りができる。

diagram

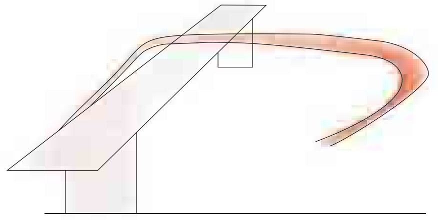
建築のつくりかた



敷地と琵琶湖大橋は高低差があるため断絶している

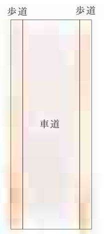


高さ 14m の地点から歩道を敷地のほうに延ばす

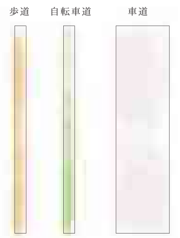


ただつなげるのではなく新しい歩行者空間をつくる

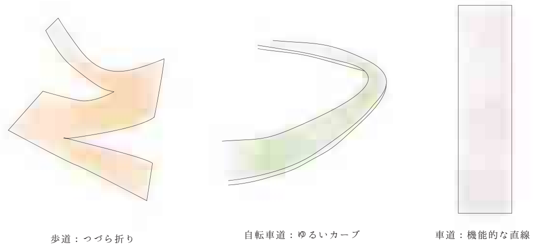
みちをつくる操作



通常の道路の関係

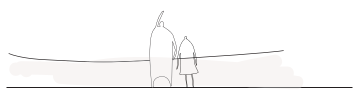


道路を 3 つに分類

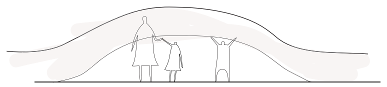


形をかえる

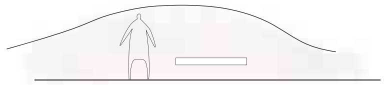
手すり・道路幅の操作



低いてすり＝景色を楽しむ



穴のあいた手すり＝こどもしか見えない

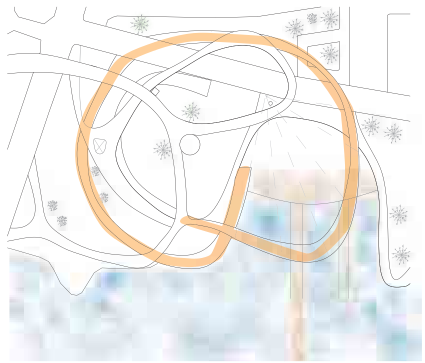


高いてすり＝先の風景への期待

これらの建築的操作からつくられた、３つのみちの特徴

自転車のみち

みちの幅や手すりの高さを変化させることにより
自転車の速度に合ったシークエンスとなった

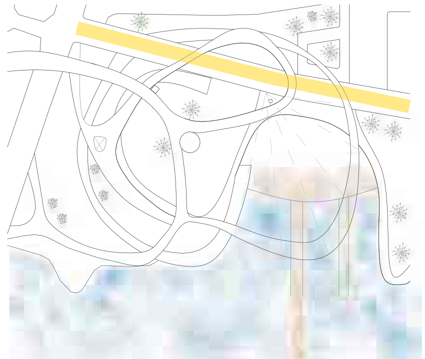


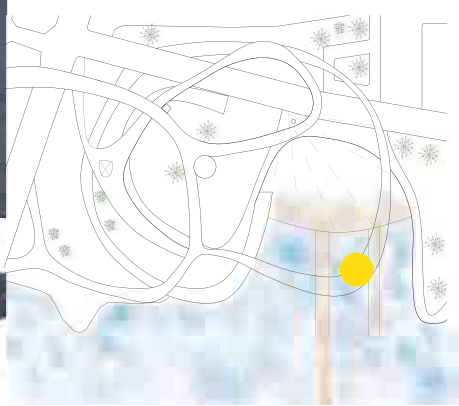
歩行者のみち

みちにはアート作品を配置
手すりの高さや形がアートをより演出する

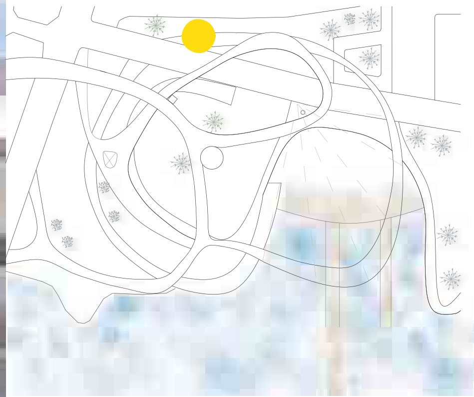
車のみち

高低差を機能的にカバーしつつ、
歩道と自転車のみちをぬうように配置

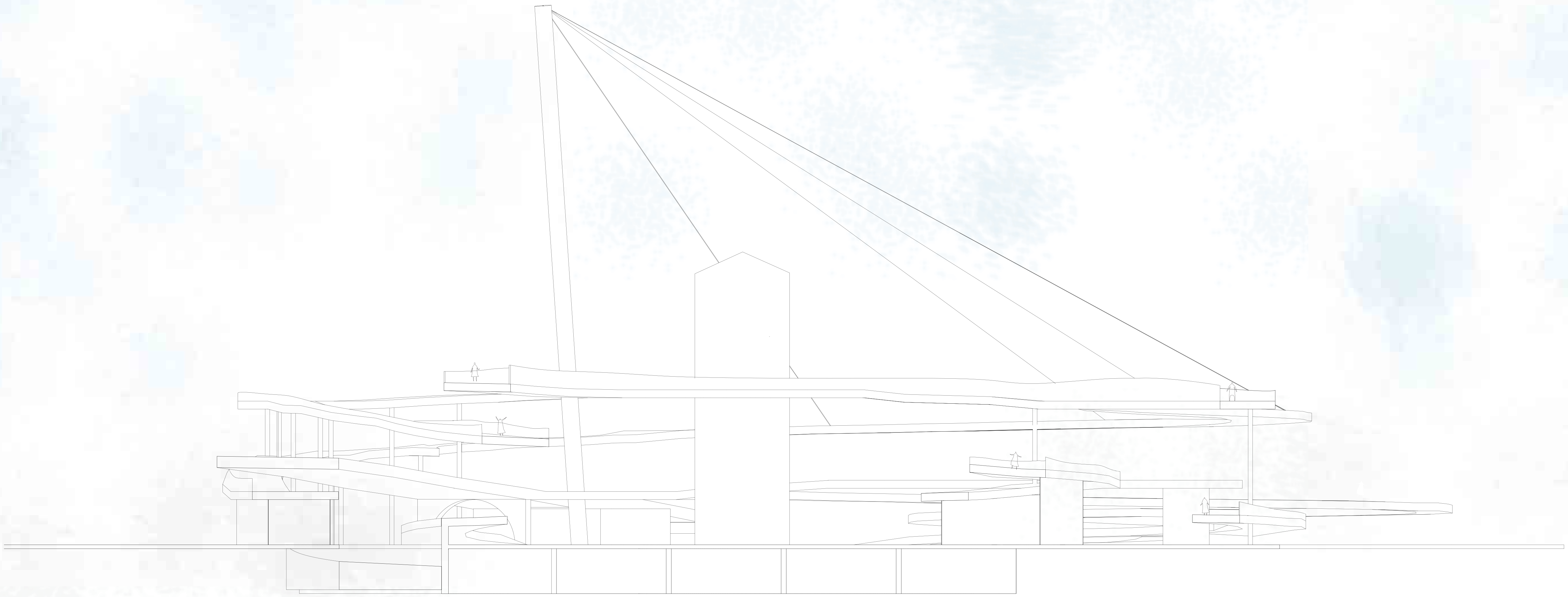




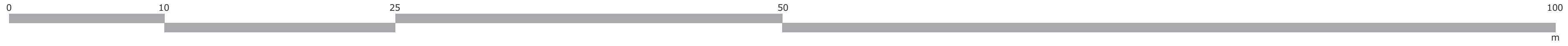
吊り構造のみちの上からは湖や対岸が見える。

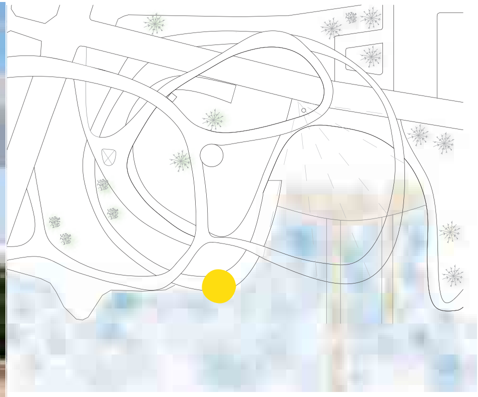


車道の下を通り抜ける。



A 段面図　S=1:200

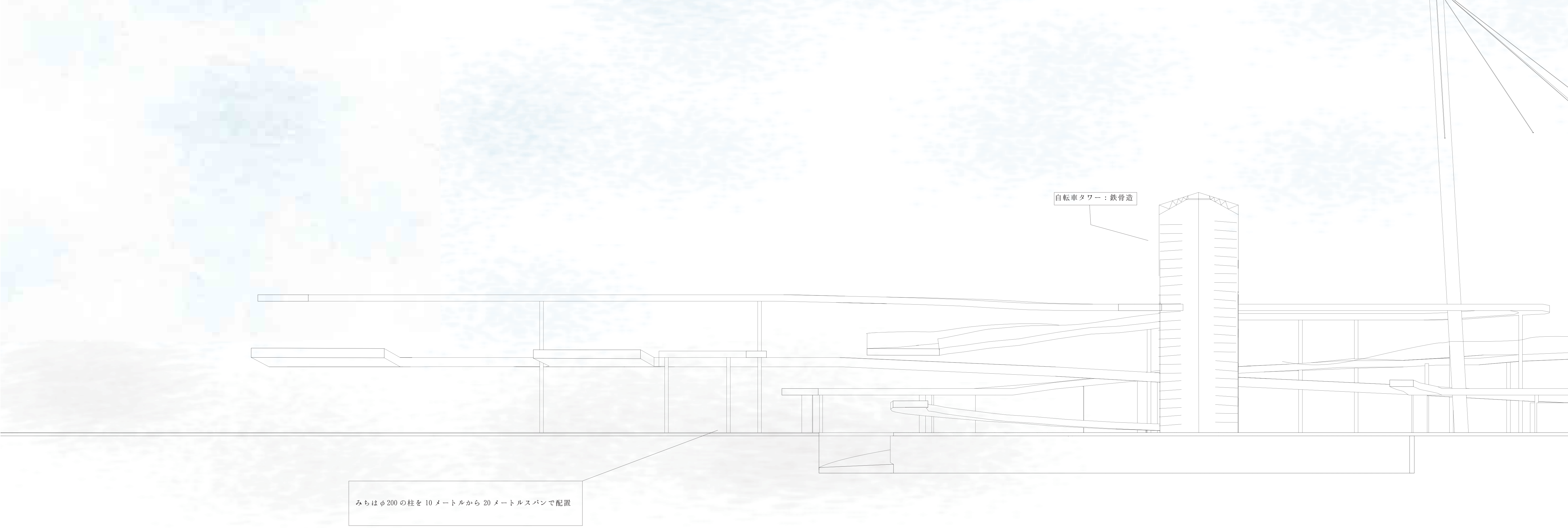


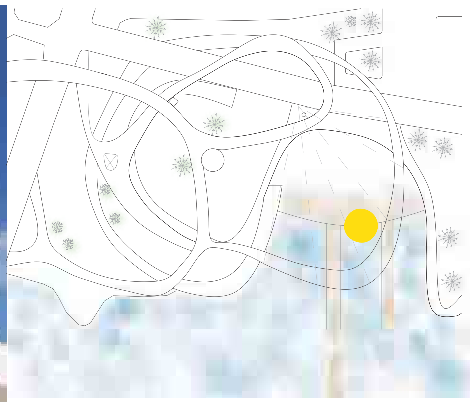


湖との境界を進むと港に降り立つ

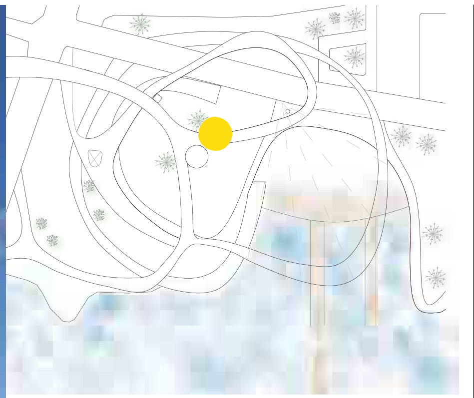
歩行者のみち

近江八幡から船でやってきた
レンタサイクルをする前に、のんびりアート鑑賞に



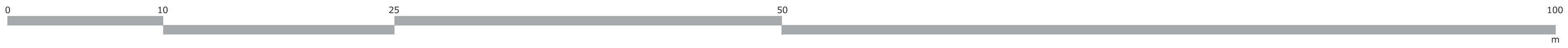


湖の広場に到着
上のみちに人がたくさんいる



アートの壁画のまえで見た琵琶湖は、とても大きかった

B 段面図　S=1:200



アートのみちをのんびりお散歩

物産展の屋台でつまみ食い
上のみちの穴からこどもがおいしそうに見ている